



牛とのコミュニケーション

生後6ヶ月くらいまでのあか牛は、母牛と一緒に広々とした草原に放牧されます。子牛たちの食事は、草原の青々とした草と水。時々飼い主に呼び集められ、塩分補給用にみそやミネラル入りの塩をもらうのが喜びのようです。こうして、健康で丈夫な体がつくれます。

6月
2008

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					



牛にみそを与える飼い主



野草地環境保全計画づくり

牧野組合と環境省との協働で、野草地保全のための計画をつくっています。組合員自ら、現地調査や関係者へのヒアリングを行い、牧野の中の地名や野草地の植生、今昔の利用や管理状況などを調査し、その結果をもとに、今後の牧野利用や維持管理についての計画をつくります。組合員の人たちが牧野の環境保全の重要性や現状を再確認するよい機会になっています。

田畑とつながる草原



御田植神幸式

通称「おんだ祭り」は、阿蘇の伝統的な農耕行事の一つです。白装束などに身を包んだ総勢百余人の行列が田園の中を進みます。農業が盛んな阿蘇では、昔から、草原の草は、農耕用牛馬のえさや畑の肥料などに使われていました。草原と田畑は深く関わっていたのです。

7月
2008

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21 海の日	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

野菜を利用した堆肥づくり

広大な草原に育つ野草は豊かな資源です。阿蘇では昔から、乾燥させた野草を牛の糞と混ぜて発酵させた堆肥や、畑の土にそのまますき込んだ緑肥を使って、野菜や果物を育ててきました。こうした利用が増えれば採草作業も進み、草原再生につながることを期待されます。



堆肥づくりは12月～2月にかけて行われます。

